

【総 評】

午前試験は、計算・事例系の問題が前回より多く出題され、新出用語やひねった問題なども多々見られましたので、全体としては前回より難易度は高めであったといえます。

午後試験では、必須問題のアルゴリズムの難易度は標準的でしたが、選択問題に難しい問題が出題されたため、その影響から全体としてみても難易度は前回より高めでした。

合格率が高かった前回と比較して、今回の合格率は下がると予想されます。

【午前】

今回の午前試験の出題内訳は、以下のようになっており、分野別の比率は例年通りでした。

内訳	テクノロジー系：50問
	基礎理論：8問
	コンピュータシステム：15問
	技術要素：22問
	開発技術：5問
	マネジメント系：10問
	ストラテジ系：20問

前半のテクノロジー系では、「機械学習、4入力 NAND 回路、二次電池、自然言語インタフェース、AES-256、JPCERT/CC、セキュアブート、委譲」といった新出用語の出題割合がやや多めでしたが、これは最近の傾向が継続していると思われます。ただし、計算や事例系の出題数が、前回及び前々回(平成30年春及び29年秋)より増加しました。また、選択肢が悩ましい記述となっているややひねった問題も見られました。特にハードウェア及び情報セキュリティで見慣れない問題が多く、難易度が高めでした。過去問題の流用や類似問題の出題も多く見られましたが、テクノロジー系全体としての難易度はやや難しめです。

後半のマネジメント・ストラテジ系では、マネジメントに計算問題が多く出題され、ストラテジ系にも例年通りの出題数であったため、前回よりは時間のかかる構成になっています。ただし、新出用語が 0to0 のみであったことを加味すると、テクノロジー系と比較して、後半の難易度は標準的であったといえます。

午前全体では、前回と同様に過去問題の流用や類似問題が例年どおり多くみられましたが、計算や事例系の問題が多く出題されました。また、テクノロジー系に新出用語や見慣れない問題などもあったため、全体の難易度は前回より高めです。

テキスト学習及び過去問演習などで、各分野の用語やその特徴、計算の公式や解法パターンなどの幅広い知識を確実に身に付けている方ならば、頻出テーマなどの易しい～標準的な難易度の問題を確実に正解していくことで、合格に必要な正答数を得られたでしょう。

【午後】

午後試験の選択問題(問2～7)では、次の分野から出題されました。前回出題されなかったソフトウェアが出題され、今回はハードウェアが外れました。ハードウェアとソフトウェアのいずれかが外れる傾向が、今回も続いています。

問2：ソフトウェア

問3：データベース

問4：ネットワーク

問5：ソフトウェア設計

問6：プロジェクトマネジメント

問7：経営戦略・企業と法務

必須問題の問1(情報セキュリティ)は、情報セキュリティ事故と対策に関する問題でした。SQL インジェクションと WAF の知識が必要でした。また、文章のなかに「現状の問題点」が記述されていたので、それを的確に探し出せれば、その他の設問にも対応できたでしょう。

選択問題(問2～7)では、問3(データベース)及び問7(戦略)の難易度が高く、分野間の難易度の差が大きかったといえます。これらは、選択する予定でいた方が多い分野と予想されたので、苦戦した方が少なくないと考えます。問3(データベース)では、外結合(OUTER JOIN)及びCASE文(多分岐)が出題されました。しかし、これらの文法は基本情報技術者では初出題となるため、未学習の方が多かったと思われる。全体として難易度が非常に高いため、残念ながら今回はこのデータベースを避けて予備分野に変更すべきだったといえます。問7(戦略)は、広告の作成に伴う広告原稿等の受渡し及びその電子化に関する問題でした。問題文の細かい記述から設問に関する内容を拾っていかねばならず、ちょっとした見落としでミスをする可能性がありました。全体的に時間がかかる設問が多かったので、難易度はやや高いといえます。

問2(ソフトウェア)は、マルチタスクの問題であり、過去の類似問題を解いたことがあれば、より解き易かったと思われる。問4(ネットワーク)は、ネットワークの障害分析と対策をテーマにした問題でした。障害の原因を答える空欄にやや悩まされますが、難易度は標準的です。問5(ソフトウェア設計)は、流れ図と決定表を扱った問題でしたが、対象レコードの条件が主論点でしたので、それを把握できれば各設問に対応できたでしょう。問6(マネジメント)は、アローダイアグラムを用いたスケジュール作成の問題です。午前試験対策で学習した知識で対応は可能です。設問2にやや時間がかかりますが、全体としては標準的な難易度です。

必須問題のアルゴリズム(問8)は、整数式を解析し、計算するプログラムが出題されました。プログラムの空欄穴埋めがなく、プログラムの内容の検討やトレースなどが主な出題テーマになっています。こういったタイプの問題では、自分で作った例や問題文の図の例でプログラムをトレースしてみることでヒントが得られますので、悩んでいないで手を動かしながら問題を解くことができたかが、正答率に影響したと思われる。難易度は標準的です。

後半のプログラム言語及び表計算(問9～13)では、各問題で一部にやや難しめな空欄もありましたが、それぞれ標準的な難易度の問題でした。

今回は、選択問題で選ぶ人が多いと予想されたデータベースが難しかったため、予備分野を用意していたか、取捨選択を適切に判断できたか、といったことが正答率に影響したと考えます。午後試験全体としてはやや難しめであったと考えますので、前回よりも平均点は下がるでしょう。

この講評の著作権は TAC(株)のものであり、無断転載・転用を禁じます。

Copyrights by TAC Co.,Ltd.2018

【予想配点】

【午前】

各 1.25 点

【午後】

問 1 (配点 12 点)

設問 1 2 点

設問 2 a～c—各 2.5 点

設問 3 2.5 点

問 2 (配点 12 点)

設問 1 3 点

設問 2 a～c—各 3 点

問 3 (配点 12 点)

設問 1 3 点

設問 2 a—3 点

設問 3 b—3 点

設問 4 3 点

問 4 (配点 12 点)

設問 a, b—各 2.5 点, c—2 点, d, e—各 2.5 点

問 5 (配点 12 点)

設問 1 a—2 点

設問 2 b, c—各 2 点

設問 3 d, e—各 3 点

問 6 (配点 12 点)

設問 1 a～d—各 1.5 点

設問 2 e～g—各 2 点

問 7 (配点 12 点)

設問 1 3 点

設問 2 3 点

設問 3 a, b—各 3 点

問 8 (配点 20 点)

設問 1 a, b—各 3 点

設問 2 c—3 点, d—2 点

設問 3 e～g—各 3 点

問 9 (配点 20 点)

設問 1 a—3 点

設問 2 b～d—各 3 点

設問 3 e, f—各 4 点

問 10 (配点 20 点)

設問 1 a～c—各 3 点

設問 2 d, e—各 4 点

設問 3 3 点

問 11 (配点 20 点)

設問 1 a—3 点, b, c—各 3.5 点, d, e—各 3 点

設問 2 f—4 点

問 12 (配点 20 点)

設問 1 a～d—各 3 点

設問 2 e, f—各 4 点

問 13 (配点 20 点)

設問 1 a—3 点

設問 2 b, c—各 3 点, d—2 点

設問 3 e～g—各 3 点

以上